

全国頸髄損傷者連絡会「東京大会」、東京観光に行って

神戸学院大学社会リハビリテーション学科 U. A

5月30日に全国頸髄損傷者連絡会「東京大会」、31日に東京観光の頸髄損傷者2名の付添いボランティアとして行かせていただいた。東京へは何度も足を運んだことがあるが、頸髄損傷の方と東京へ旅行に行くことも初めての出来事であった。事前に頸髄損傷の方の家に訪問させていただき、介護の仕方を教わったが、不安な気持ちでいっぱいであった。

当日になり、まず始めに新幹線に乗った。今回の旅行の移動は電車、新幹線の公共交通機関を利用した。公共交通機関を利用することにより、幾つか気づいたことがある。1つ目は、新幹線のスペースについてである。一番初めに乗った新幹線は多目的室が大変狭かった。そのため、車椅子1台であっても入ることができなかった。障害者が乗るためのスペースであるにもかかわらず、扉が閉まらないのはこれから改善すべき点である。次に乗り換えた新幹線は、多目的室に車椅子1台入ることができた。駅員によると、新しい車両と古い車両によってスペースの広さが変わってくるという。偶然に乗った車両が古い車両のため、車椅子が入らないことはあってはならない。



広いスペースの多目的室

2つ目は、関西と関東での公共交通機関の対応の差である。関西であると、エレベーターは自分で降り、駅員は電車の乗り降り合流という形をとっていた。私はそれが当たり前と考えていた。しかし、関東に行くとエレベーターのボタ

ンを押し、一緒に付き添っていただく等丁寧な対応をして下さった。人によって考えが異なるのかもしれないが、私が当事者であれば関東の駅員に対応してもらいたいと感じた。

次に、東京大会の感想を述べる。初めて全国の頸髄損傷者連絡会「東京大会」に参加させていただいた。東京大会では、報告等がなされた。その中でも「地域差がある」という言葉が一番印象に残った。関西地方は活発に活動を行っている地域が多くあるが、その他の地域は関西地方と比較すると活動が活発に行われていないということを知った。関西地方だけでなく、他の地域でも活動の幅を広げてほしいと感じた。

さらに、驚いたことがある。全国各地に全国頸髄損傷者の支部があると思っていたが、全国各地にはないということである。頸髄損傷連絡会の支部がない地域はほかにサポートする社会資源があるのか疑問に感じた。

もう一つ驚いたことがある。それは、食事会の時に伺った話である。関西地方は大学生のボランティアの数が非常に少ないということである。神戸学院大学はボランティア活動に力を入れており、私の周囲もボランティアを行っている人が多いため、大学生がボランティアを行うことは珍しいことではないと考えていた。ボランティアにも地域差があることに驚いた。

頸髄損傷の方の介護での感想を次に述べる。私は人に気配りができない。さらに、人の気持ちを敏感に読み取ることができない。そのため、今回の旅行は気を配り水分補給が必要な場面で気づくことができるのか大変心配であった。当日は他の2人に比べ、私は気を配れる場面が少なく反省すべき点であると考えた。また、指示と異なることを行った場面があった。大事には至らなかったが、一歩間違えると重大な事故になりかねない。気をつけるよう心掛けているが、間違ってしまうことが多い。今回の課題点を次のしあわせの村での1泊2日で活かしたいと考えた。